

連載 第2弾 インシュアテックイノベーション-Phase 2- 2

—生保エコシステムの新たなステージ— ヘルスケア分野への展開

健康診断書AII-OCR×リスク予測

アイリックコーポレーション(IIRC)フェロー

保険・ヘルスケアDX担当 畔柳主税

前回、保険業界のヘルスケア分野で、新たな顧客体験を創るには、データ・ITサービス・ビジネスの3層に組み立てられたコンセプトが必要とお伝えした。今回は、健康診断書AII-OCR(データ層)、健康リスク予測(ITサービス層)で、どのような顧客体験・ビジネスを創れるか、その世界観をお届けする。

レグルル社の山本社長との出会いは2020年4月になる。緊急事態宣言が初めて出たコロナ禍の真っ最中だ。健康診断書AII-OCRの開発着手を謳ったものの、リアルな営業活動が止まった。局面打開に迫られ、部下の山内(当時)とオンラインセミナーを起案し、3週間で開催した。さらに、健康診断書AII



第1回セミナー登壇者(上左から)レグルル山本社長、IIRCフェロー畔柳氏、(下左から)大川氏、重木氏

まずは、レグルル社のサービスを紹介します。レグルル社では健康診断の

結果等から健康リスクを予測する「マイリスク」を展開している。内容は他社が提供する疾病のかなりやすさや〇〇年齢(相対的健康度、例:血管年齢)だけでなく、入院確率・健康余命など多岐にわたる。BMI・血糖など30項目以上の検査結果と健康リスクの因果

「実現できたら使えるサービスですね」と好評だった。一方で、コンセプトが先進的過ぎたことや、コストの課題があった。その後2年が経過して、保険会社におけるヘルスケア領域への取り組みが加速したことや、健康診断書AII-OCRの共用クラウド化による大幅なコストダウンで、ようやく引き合いも出てきた。

リスク予測がひらく予防・早期発見への道

「再検査してください」と言われて、1、2回、行ってみたが、「特に異常なし。忙しいのに検査の時間があったいな」と。さて、今年はどうかな?」

「病気としての症状はないが、年齢のせいかわれやすくなってきた」「65歳まで働くとして、自分の体は持つのか?」と将来の不安が芽生えてくる。

「えっ、脂肪が多い」「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

【畔柳主税(あぜやなぎ・ちから)氏のプロフィール】
静岡県富士市生まれ・東工大卒。石油会社のIT部門から2008年より保険業界向けのITソリューション・DXの企画・営業に携わる。持ち味は企業コラボ。

関係を理解できることが大きな違いだ。だから体重を5キロ減らし、血糖値を20減らせれば、リスク年率が2歳若くなり、入院確率を6%減らせるといったシミュレーションができる。これにより、健康増進に対して意欲的な目標を設定できる。さらに、ヘルスケアアプリとも連動して「このまま毎日8000歩を続けられれば、体重も5キロ減りますよ」などと教えてくれるアプリも、まもなくリリースされる。

健康診断書AII-OCR×リスク予測で、どんな顧客体験を創れるの

「病気としての症状はないが、年齢のせいかわれやすくなってきた」「65歳まで働くとして、自分の体は持つのか?」と将来の不安が芽生えてくる。

「えっ、脂肪が多い」「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。

「Aさんは、「スマホで簡単な、やってみるか」と、健康診断書をカメラで撮って送ってみる。